# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 子供 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学２年生　道徳 | 時数等 | ２時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・いじめを絶対に許さない強い意識をもち、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。<br>・誰に対しても公平に接する態度、不正を許さない姿勢を育む。 |
| 実施した内容 | ・福井弁護士会の弁護士を講師に「いじめ防止」に関して、観衆や傍観者の立場を考えた出前授業を行った。 |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・１つの事例をもとに、個人で考える場面、グループで話し合う場面、学級・全体で発表する場面を設けた。また、体育館での一斉授業のあとは、各学級に戻って観衆や傍観者になった経験がないか、考える時間を設けた。<br>（他機関との連携）<br>・福井県教育委員会主催の「弁護士によるいじめ予防教室」事業により、講師を紹介していただいた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 社会科「基本的人権」、道徳「傍観者でいいのか」、特別活動でのﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄの実践 |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「いじめの構造（特に傍観者）について理解する。」<br>　構造的な傍観者については、道徳でも学習しており、再度確認した。<br><br>・価値的・態度的側面：いじめは絶対許されないものであると思う。<br>　事業終了間際：１００％<br><br>・技能的側面：「困っている人がいたら、進んで助けることができる。」<br>　事業後は「傍観者にならない」「いじめを見つけたら、大人に相談するなどして、解決につなげたい。」「もし、その場面を見かけたら、いじめられている人に話を聞いたり、寄り添ってあげたい。」という感想が多く見られた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 女性 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学２年生　道徳 | 時数等 | １時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・ジェンダーバイアスにとらわれることなく、誰もが自分らしく生きるために必要なことを考え、その社会の実現のために行動する意欲を育てる。 |
| 実施した内容 | ・家庭や学校生活において、自分たちの意識の中に性別による差別や固定観念、固定的な性別役割分担意識がないかグループで話し合う。 |
| 工夫した点 | ・普段の生活の中で、性別による違和感を改めて考えさせることで、無意識な固定観念にとらわれていたり、差別していないか確認するようにした。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 家庭科「家庭、家族と地域」「これからの家族と地域」<br>社会科「男女共同参画」 |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「女性に関する人権問題について理解する。」<br>性による差別や固定観念があることを知り、男女共同参画について知識を深めることができた。<br><br>・価値的・態度的側面：「地域や社会をより良くするために、何をすべきか考えることができる。」<br>授業後の感想では、性による差別や固定観念があることを知り、今後の生活においては区別なく助け合っていくべきだという意見が多かった。<br><br>・技能的側面：「違いを認めつつ、困っている人がいるときには、進んで助けることができる。」<br>授業後の感想の中には、将来、家庭を持ったときの男女の協力のあり方について考えているものがあった。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |
|---|---|---|---|

| 人権課題 | 高齢者 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学１年生　道徳 | 時数等 | １時間 |
|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・高齢者への偏見や思い込みを取り除き、高齢者への人権意識を高める。<br>・高齢者の現状や課題を聞き、日常生活において自分自身が「できること」を考え、実践しようとする態度を育てる。<br>・高齢者に対する思いやりの心をもち、親切にする意欲や態度を養う。 |
| 実施した内容 | ・高齢者が生きづらさを感じる具体的な場面について、高齢者の気持ちを考え、自分たちにできることを考える。 |
| 工夫した点 | ・家庭や地域において、高齢者の手助けをしている活動（見守り隊、交通安全指導、地域行事など）について確認した。<br>・年齢による病気、体力の低下等について、指導者が補足した。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 社会「少子高齢化」 |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「社会の中で高齢者のおかれている状況について理解を深める」<br>　認知症や体力の低下等、高齢者についての正しい知識を身に付けることができた。<br><br>・価値的・態度的側面：「高齢者に対する感謝や思いやりの気持ちを育むことができた。」<br>　授業後の感想では、高齢者の接し方を考えたり、高齢者を支えていこうとする内容が見られた。<br><br>・技能的側面：「人が困っているときには、進んで助けることができる。」<br>　授業後の感想では、小さなことでも見て見ぬふりをせず、自分にできる範囲で進んで助けられる人になりたいという内容が見られた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |
|---|---|---|---|

| 人権課題 | 障害者 | 対象学年・取り扱った教科等 | 全学年　道徳 | 時数等 | ２時間 |
|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・障がい者に対する偏見や思い込みを取り除き、障がい者の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる。<br>・障がい者の社会における現状や課題、障がい者を支援する取組について理解を深める。<br>・障がい者に対する思いやりの心を持ち、障がい者に対し自分たちができることを話し合い、実際に行動できる態度を養う。 |
| 実施した内容 | ・講師に講演いただき、障害者の気持ち、社会での現状や課題について理解を深める。（１時間）<br>・障がい者が求めている支援について、講師や生徒同士で意見交換を行い、生徒自身が障がい者に対してできることを考える。（１時間） |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・講師の詳細な情報を聞かないようにするなど、個人情報の取り扱いに注意した。<br>・講師の講話の中で、生徒が考える時間や考えたことを全体発表し共有できる場を設定してもらうように依頼した。<br>（保護者との連携）<br>・当日は保護者にも講演を公開し、家庭でも障がい者に対する支援のあり方について考える機会とした。<br>（関係機関との連携）<br>・「思いやりの心を育てたい」という敦賀地区保護司会や敦賀市福祉保健部地域福祉課地域共生社会推進室と連携し、講師を紹介いただくとともに、当日も参画いただいた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 家庭科「ユニバーサルデザイン」 |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「社会の中での障がい者の現状について理解を深める。」<br>事業後の感想では、障がい者に対する人権課題について、どのような差別があるか、また障がい者がどのようなことに困っているかについて理解を深めることができた。<br><br>・価値的・態度的側面：「地域や社会をより良くするために、何をすべきか考えることができる。」<br>事業後の感想では、障がい者の気持ちに寄り添い、本当に必要な支援は何かを考え、どのような行動を取ったら良いか考察した感想が多かった。<br><br>・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」<br>事業終了間際：９０％ |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 同和問題 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学２年生　道徳 | 時数等 | １時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・同和問題について学び、偏見や差別を解消しようとする態度を育成する。<br>・互いに尊重し合いながらよりよい社会を実現するために行動できるようにする意欲や態度を育む。 |
| 実施した内容 | 地域の専門家を講師として招き、地域の実情に基づく同和問題に関する授業を行った。 |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・どこか遠いところの話ではなく、差別されている人の立場になり、自分事として捉えられるようにした。<br>（関係機関との連携）<br>・毎年２年生を対象に行っている。今後も継続的に出前授業を行っていただけるよう協力を依頼している。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | ・社会科の歴史分野における、同和問題に関する学習内容。 |
| 事業成果 | ・知識的側面：「同和問題の歴史的経緯を知り、現在も差別が存在することを理解する。」<br>小学校からの学習の積み重ねもあり、どのような差別が行われてきたか、生徒自身がより詳しく説明することができるようになった。<br><br>・価値的・態度的側面：「同和問題を解消するために行動しようと思う。」<br>授業後の感想では、出自だけで差別することは許されないという内容が多数見られた。<br><br>・技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる。」<br>授業後の感想では、出自だけで差別することはしないという内容が多数見られた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |
|---|---|---|---|

| 人権課題 | 外国人 | 対象学年・取り扱った教科等 | 全学年　英語 | 時数等 | １時間 |
|---|---|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・ALTとの対話を通して、出身国、出身地の文化を理解する。<br>・互いの文化を認め合い、人権を尊重し合おうとする態度を育てる。 |
| 実施した内容 | ・ALTの出身国、出身地の文化について説明してもらい、日本との違いを理解するとともに、互いの文化や価値観などを尊重するように促した。 |
| 工夫した点 | ・互いの文化を認め合い、それぞれの国で多様な考え方があることが推測できるよう、資料の提示方法を工夫した。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 社会「多様な文化の意義」 |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「互いの文化、考え方について理解する。」<br>ALTの母国の文化や、日本との違いについて知ることができた。<br><br>・価値的・態度的側面：「異なる文化、考え方を認め、何をすべきか考えることができる。」<br>異文化を認め、人権を尊重し、コミュニケーションを図ろうとしていた。<br><br>・技能的側面：「相手の立場に立って物事を考えることがある。」<br>事業終了間際：９２％ |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | インターネットによる人権侵害 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学１・２年生　道徳 | 時数等 | ２時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・インターネットによる人権侵害について理解を深め、それらをなくするために自分自身が取るべき行動を考えることができる。 |
| 実施した内容 | 敦賀警察署生活安全課より講師を招き、出前授業を行った。 |
| 工夫した点 | （指導上の工夫）<br>・実際に起こった事例を提示して、日常のささいなことでも人権侵害になることを理解できるようにした。<br>・インターネットを正しく活用するためにはどのようなことが必要なのか、生徒自身で考える時間を持った。<br><br>（地域や関係機関との連携）<br>毎年、夏休み前に敦賀警察署と連携し事業を行っている。秋には新入生保護者向けの事業も行っている。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 道徳「SNSに友達の悪口を書くと」 |

## 事業成果

・知識的側面：「インターネット上での人権侵害の具体例を知っている。」
　講師より数例紹介があったため、１００％。

・価値的・態度的側面：「人を傷つけないよう、どのようにすべきか考えることができる。」
　授業後の感想では、言葉を選ぶ、勝手に写真を掲載しない等の意見が多かった。

・技能的側面：「他者の気持ちを想像して、行動することができる。」
　授業後の感想では、自身が被害者になることを想像して、やってはいけないことはやらないという意見が多数あった。

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 北朝鮮当局による拉致問題 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学３年生　社会 | 時数等 | ２時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | 拉致問題の実態を知ることを通じて、拉致問題が人権問題であることを理解し、基本的人権を尊重するという意識を高める。 |
| 実施した内容 | ・拉致問題が北朝鮮当局による人権侵害であることを理解する<br>・アニメ「めぐみ」の視聴後、めぐみさんが奪われた権利について考察し、新たな差別や偏見を生み出さない態度を育てる。 |
| 工夫した点 | アニメ「めぐみ」の視聴や、帰国拉致被害者の新聞記事や資料を読むことを通して、拉致問題への理解を深めるようにした。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 道徳（公正、公平、社会正義） |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「拉致問題について知っている。」<br>　アニメ「めぐみ」、拉致問題関連新聞記事提示のため、１００％<br><br>・価値的・態度的側面：「人を傷つけないよう、どのようにすべきか考えることができる。」<br>　授業後の感想では、それぞれの人権を侵害してはいけないという意見がほとんどであった。<br><br>・技能的側面：「他者の気持ちを想像して、行動することができる。」<br>　授業後の感想では、拉致されてからの時間と家族の思いを考慮する内容がほとんどであった。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 都道府県・指定都市名 | 福井県 | 学校名 | 敦賀市立粟野中学校 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 人権課題 | 性的指向、性自認 | 対象学年・取り扱った教科等 | 中学１年生　保健体育 | 時数等 | １時間 |

| | |
|---|---|
| 目標・人権教育のねらい | ・多様な性の在り方について理解し、LGBTQへの偏見や差別について考え、誰もがありのままの自分で生きられる社会を実現しようとする意欲と態度を育てる。 |
| 実施した内容 | ・多様な性の在り方について、正しい知識を知り理解を深める。<br>・だれもが居心地よく生きられる社会の実現に向けて、自分にできることを考える。 |
| 工夫した点 | ・LGBTQという言葉を単に提示だけでなく、構成要素を分解して教えることで、理解が深まるようにし。<br>・LGBTQを自認しているという割合（2023年度実施、２０～６０歳までの５．６万人を対象にした調査で９．６%、１０人に１人の割合）を提示することで、身近な問題として捉えるように工夫した。<br>・身近の問題に感じるように制服のデザインについて考える機会を設けた。 |

# 令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

| | |
|---|---|
| 他教科との関連 | 特別活動（集団活動等） |

| | |
|---|---|
| 事業成果 | ・知識的側面：「性的マイノリティ（LGBTQ）という言葉の意味を知っている。」<br>授業後は、半数以上の生徒が言葉とともに構成要素をあげることができた。<br><br>・価値的・態度的側面：「性的マイノリティの人がより生活しやすくするために、何をすべきか考えることができる。」<br>制服リニューアルのアンケートの際、デザインについて性的マイノリティに配慮した意見を出す生徒が複数名いた。<br><br>・技能的側面：「人が困っているときには、行動することができる。」<br>授業後の感想では、性差やそれぞれの悩みについて理解するとともに、そのような人がいるとわかった場合は、助けていこうという内容が多かった。 |